

# みなさんこんにちは! …新任医師の紹介をします…



まつおか ひろし  
**松岡 博史** 49歳  
 【担当科】救急・集中治療  
 【出身大学】宮崎医科大学  
 【趣味・特技】映画鑑賞  
 【自己PR】見た目と違って穏やかだと思っています。  
 これからよろしくお願いします!

## 記念病院 理念 「人間愛」

### 一 記念病院 基本方針 一

1. 患者様の人権と意思を尊重し、患者様の立場に立った医療の提供
2. 地域の中核的病院として、専門的且つ高度な医療を実践
3. チーム医療を推進し、より良い医療の希求
4. 豊かな人間性を備えた医療人の育成
5. 職員が意欲を持って働ける職場環境



## あとかぎ

食欲の秋・読書の秋・スポーツの秋・芸術の秋・行楽の秋…

皆さんはどんな秋を思い浮かべますか？私は地元、門川町のイベントの風景で秋を感じます。そこで皆さんにこれからの季節に開催される門川町の催しを紹介したいと思います。

★「いきいきまちフェスティバル（十一月第一土・日曜日開催）」商業祭・産業祭・文化祭を同時に開催するイベントとして毎年恒例で、たくさんの方で賑わいます。小中高生、一般の部まで幅広い世代の方の書道や絵画作品の展示があったり、町内外の特産の新鮮な野菜や果物、朝取れの鮮魚、農産・水産加工品、銘菓などが格安で展示即売されていたり、活気あふれるイベントです。

★「門川神社大祭（十一月二十三日開催）」古くからの戦勝を祈って踊ったものと伝えられる小園白太鼓踊りが有名で、豊臣秀吉の出兵に関連しており陣中で舞われた勇ましい踊りが、小園白太鼓保存会の手により受け継がれ奉納されています。入厄・中厄・晴厄が担ぐ神輿の御神幸も見どころの一つです。併せて地区の子供神輿も行われます。開催日までに皆で集まって御神輿を作り、当日は「わっしょい！」の掛け声で家の周辺を練り歩き、町が賑やかになります。

★「尾末神社大祭（第三日曜日開催）」ローカル番組で取り上げられることも多く、「だんじり」の愛称で存じの方も多いためではないでしょうか？海の豊魚と安全を祈願するお祭り、御神輿を先頭に尾末・下納屋・上納屋地区の三基のだんじりが早

朝から漁師町を練り歩きます。練り歩くまは上に下に、右に左にと躍動感にあふれ、太鼓をたたく乗り子と担ぎ手の息が合っこそ見られる風景です。門川漁業協同組合前で行われる「さしくらべ」では、重さ二トンのだんじりを男達が豊漁を願い、地区の誇りとプライドをかけて二十分間高々と差し上げ、その美しさ、勇壮さを競います。高々と持ち上がった時に男達と観衆の心が一つになる最高の見せ場でもありません。尾末神社境内で行われる「宮巡り」では、黄色の神輿を先頭に、尾末・下納屋・上納屋の順番で神社本殿をそれぞれ三周し、担ぎ手の心一つにして、だんじりを華麗に差し上げます。三周する間は絶対だんじりを地面につけてはならないという決まりの中で、最後の力を振り絞って力強く担ぐさまは迫力があり、まさに年に一度の大舞台です。長い間親が子へ、子が孫へと受け継いできた漁師の祭り。見ている観衆も身震いするほどの感動を覚えます。

地元の催しを振り返ってみて、当時感じた秋を懐かしく感じると共に、歴史のある大祭に参加していたことを誇りに思いました。暑さも一段落した秋は過ごしやすく、様々なことに挑戦しやすい季節でもありません。地域の催しに参加することはもちろん、旬のものを食べて、体を動かして、目で見て肌で感じて今年の秋は活発に行動しようと思えます。皆さんも是非門川町の催しに足を運んでいただいで、秋を感じていただけたら嬉しいですね。



# 潤

うるおい

No.  
78

2019年 10月1日発行

一般財団法人 潤和リハビリテーション振興財団  
**潤和会記念病院**  
 病院長 岩村 威志  
 〒880-2112 宮崎市大字小松1119番地  
 TEL0985-47-5555 FAX0985-47-8558  
<http://www.junwakai.com>

## 百草をなめて一薬を知る

潤和会記念病院 副院長(集中治療部) **濱川 俊朗**



神農(しんのう)は、古代中国の三皇五帝の一人で医薬と農業を司る神とされています。農業を広めると共に、「百草をなめて一薬を知る。」と自分の身体で植物の薬効を試しました。腹部が透明で毒であれば内臓が黒くなり、毒がどの臓器に悪影響を与えるかを知ることができたようです。最古の薬物の本である「神農本草経」の書名にもなっています。

人間以外の動物も薬草を使用しています。チンパンジーは、キク科の植物を駆虫薬として用いていますし、イヌやネコも体調が悪いとき、庭の植物を食べているのを見たことがある人も多いと思います。よって人類も非常に古い時代より薬草を使っていたと思われます。薬草の書かれたパピルスや粘土板、羊皮紙が数多く残っています。また、イタリアのアルプスの氷河の下から発見された、5300年前に死んだと考えられているミイラは、腰に薬草袋を付けていました。

さて植物は動物と違って自分では動けないので、害虫が来るとなすがままということになります。このため自分を守るために、いろいろな化学物質を作ようになりました。モルヒネやニコチンも元は害虫よけだそうです。また、役に立つ動物を呼び寄せる果実や化学物質を作っています。そのような化学物質をタキソールなどの抗癌剤を含め医薬品として、われわれ人類は使用しているわけです。もちろん人類にとって役に立つ化学物質のみを生成しているわけではなく、時に中毒といった病気を引き起こすことがあります。

私が子供の頃、父が山へ「ナバ(キノコ)採り」に連れて行ってくれていました。母が作ってくれた弁当と竹製のカゴを背負って山の中に入っていくのは、冒険に出かけるようでした。原生林の中にゆらぐ木漏れ日の中に、ピンクや黄色のホウキタケの群生は大変美しく、海底のサンゴを見るようでした。父は、このキノコは食べられる、これはダメだとか教えてくれていました。

2006年8月に延岡市の男性が、「ニセクロハツ」を食用の「クロハツ」と間違えて吸い物にして食べ、わずか3日後に多臓器不全で亡くなっています。このとき診察した医師は、「手を尽くしても救命は不可能だった。結論としては食べない以外に治療法はない。」と言われていました。この毒は、今まで考えられていたものより、分子量が非常に小さい2-シクロプロペンカルボン酸(C<sub>4</sub>H<sub>4</sub>O<sub>2</sub>)だったことが、後で明らかにさ

れました。2018年9月にも三重県で70歳の男性がニセクロハツで亡くなっています。その他、ツキヨタケ、クサウラベニタケ、カキシメジなどキノコ類は毒を持っているものも多く、注意が必要です。通説で①柄が縦に裂けるキノコは食べられる。②ナスと一緒に料理すれば食べられる。③ぬめりのあるキノコは食べられる。などの見分け方が民間伝承であるのですが、全部迷信で信じてはいけません。

また、キノコ以外で1998年に、都城市でチョウセンアサガオ(図1)の根をゴボウと間違えて食中毒となった人がいました。チョウセンアサガオは、「ダチュラ」、「マンダラゲ」、「エンジェルズ・トランペット」という名前で園芸用として流通しています。世界で初めて全身麻酔で乳癌手術を行った華岡青洲は、この植物から麻酔薬の「通仙散」を作成しました。また、その美しくバランスの取れた花は、日本麻酔科学会のシンボルマーク(図2)になっています。

厚生労働省のホームページから「有毒植物による食中毒に注意しましょう」というページへ行くと、「過去10年間の有毒植物による食中毒発生状況」という項目があり、いろいろな植物があげられています。是非参考にしてください。私が、ここ数年間のうちに新聞などで見たものは、「ニラと間違えてスイセンを食べた。」、「セリと間違えてドクゼリを食べた。」、「ギョウジャニンニクと間違えてイヌサフランを食べた。」、「料亭で刺身の飾りについてアジサイを食べた。」といった記事が記憶に残っています。

症状は、悪心、嘔吐、下痢、流涎、発汗、頭痛、痙攣、昏睡、低体温、筋肉痛などがあります。もし、食べておかしいと思った場合は、当たり前ですが、すぐにはき出してください。食べてしまった後だったら、すぐ病院を受診してください。この時、嘔吐したものや食べたものの残りがあつたら持ってきてください。また、商店などに売っていても100%安全とは言えません。治療は、症状に合わせた対処療法が主になります。

神農も最期はケシまたはダンチョウソウを食べて亡くなったそうです。くれぐれも用心のほどをお願いします。



＜図1＞  
チョウセンアサガオ



＜図2＞  
日本麻酔科学会のシンボルマーク

# UKA(単顆人工膝関節置換術)について

整形外科  
福田 一

膝関節は大腿骨(太ももの骨)、脛骨(すねの骨)、膝蓋骨の3つの骨が作る関節です。関節内の骨は軟骨という柔らかな組織で覆われています。軟骨は衝撃を吸収したり、関節の動きをなめらかにしたりする働きがあります。

軟骨は生きていく中で徐々にすり減っていきます。肥満、負荷が大きいスポーツ、外傷による損傷などはすり減るスピードを加速させます。高齢者の膝関節痛の原因の多くは膝関節内の軟骨損傷によるものです。みなさんの周囲にも膝痛に悩む人がいるのではないのでしょうか。

軟骨を再生させる治療は再生医療の進歩とともに研究がすすめられています。残念ながら現時点では確立されていません。現在最も成績の良い治療法は、摩耗してなくなった軟骨を人工関節に置換することで痛みをとり、膝の機能をできるだけ回復させる方法になります。

人工膝関節置換術には大きく分類してTKA(人工膝関節全置換術)とUKAの2つがあります。日本人の膝関節軟骨摩耗は通常内側→外側の順に進行していきます。内外側同時に軟骨摩耗が起こることは希であるため、適切なタイミングで手術ができれば摩耗している内側のみの置換で治療できます。摩耗した内側軟骨のみ(外側のみの場合もあり)置換する治療がUKAであり、軟骨以外の組織も含めた膝関節全て(内側・外側の軟骨、膝蓋大腿関節、前十字靭帯、後十字靭帯、他)を人工関節に置換する治療がTKAとなります。人工膝関節置換術の適応はTKAが約30%、UKAが約70%程度です。

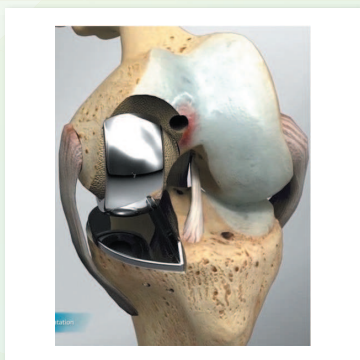
日本ではTKAが治療の主流であり、人工膝関節の90%以上でTKAが選択されており、UKAは数%のシェアとなっています。県内でも軟骨損傷に対する治療方針としてUKAを選択している施設はほとんどありません。残念ながらUKA適応の膝までTKAで置換されている状況です。

私はUKA治療を積極的に行っております。TKAと比較したUKAのメリットは、①痛みが少ない(手術中に筋肉を切らない、骨切り量がTKAの30%程度、出血が少ない、などの違いがあるため)、②輸血不要、③術後の筋力低下がない、④入院日数が少ない(術後5日~2週間で退院可能)、⑤合併症が少ない(感染症、深部静脈血栓症、脳卒中、心血管症、他)⑥膝機能が良い(TKAと違って術後の制限はほとんどなく、テニス、スキー、バレーボールなどスポーツ復帰可能)、などがあります。UKAはTKAと比較してメリットの多い手術なので、UKAの適応症例はできるだけUKA選択するように心がけて手術適応を決定しています。

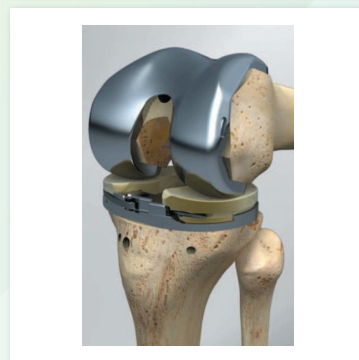
ただしUKAは術者によって術後の成績が異なり、不慣れな術者の手術では成績不良となります。年間12症例以上のUKAをすることで成績が安定するといわれていますが、私はここ数年、年間20~30程度のUKA症例がありますので成績も安定しております。

膝の痛みでお悩みの方がいらっしゃいましたら、一度整形外科外来を受診していただければ悩み解決の糸口が見つかるかもしれませんので、お気軽に御相談ください。

UKA



TKA



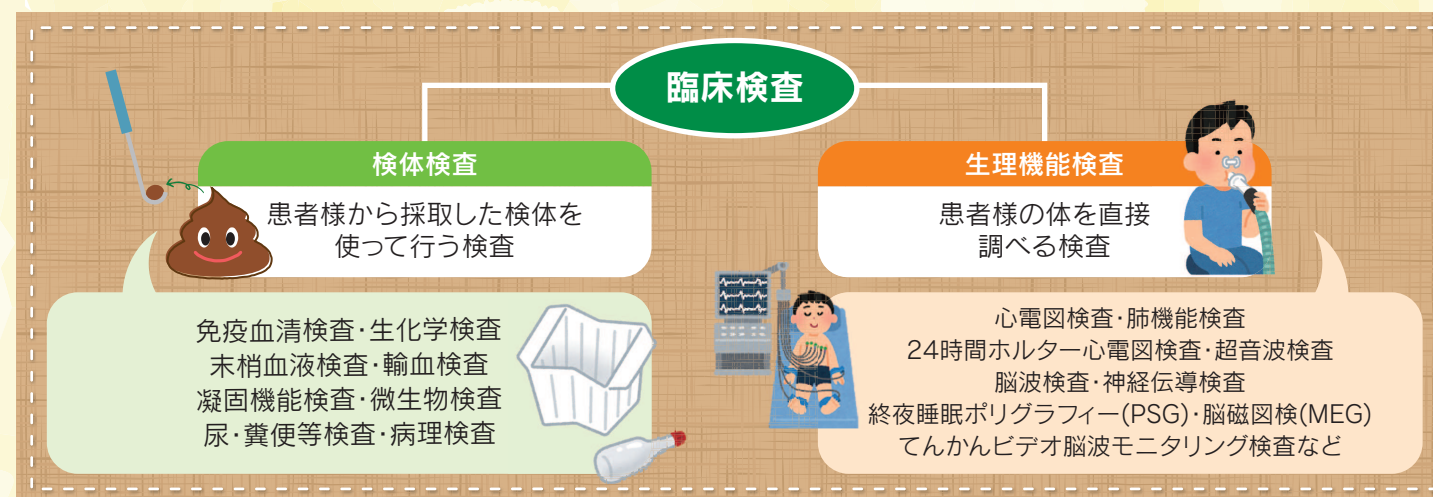
# 『臨床検査室の紹介』

潤和会記念病院の臨床検査室には臨床検査技師14名、事務員1名が所属しています。臨床検査技師14名のうち8名は1F検査室で検体検査および生理検査を、4名は脳神経センターでの神経生理検査を、2名はS館1F病理検査室で主に病理組織検査と細胞診検査を担当しています。

患者様が身体の具合が悪くなって病院を受診すると、医師は正しい診断をするために、色々な検査で患者様の異変を調べます。患者様の血液、尿、便などを検査し、そのデータを元に診断を行っていきます。

また、臨床検査は病気の診断だけでなく、重症度の判定、治療経過の確認、回復の度合いの確認など、患者様の治療の方針、方法、手段を決める手助けにもなります。

臨床検査は、大きく検体検査と生理機能検査の2種類に分けられます。検体検査は、患者様から尿、血液、痰、組織などの検体(材料)を採取し、それらを化学的、形態学的に検査するものです。生理機能検査は患者様の心臓や脳などの動きを電氣的にとらえて波形として表したり、体の内部の状態を超音波などで画像にする検査です。検査の結果は、数値ではなく主にグラフや画像として表されます。



免疫血清検査	免疫反応から体内にどんな病気が発生しているのかを調べる検査です。B型肝炎、C型肝炎、梅毒などのウイルス感染症検査やがんの早期発見、治療効果を見る腫瘍マーカー検査、甲状腺機能を見るホルモン検査などを行っています。
生化学検査 (臨床化学検査)	血液や尿の中に含まれるタンパク質、糖、電解質、酵素などの成分を測定する検査です。これらの成分を検査することは、病気の診断や治療をする上で大変重要です。
輸血検査	血液型を調べ、安全な輸血ができるように受血者と供血者の適合検査を行い、患者様に合う血液を提供します。
血液検査	血液中の赤血球、白血球、血小板などの数をカウントすることにより、貧血や感染症などがいないか調べます。
微生物検査	感染症がどんな微生物によって引き起こされているかを調べ、その治療に有効な抗生物質の決定を行うための検査です。当院では外部検査センターに委託しています。
尿・糞便等検査	尿中に糖やたんぱく質などが含まれていないか、さらに尿を遠心分離し目に見えない有形成分を顕微鏡で検査することで糖尿病や腎疾患の診断に役立ちます。
凝固機能検査	凝固検査は、出血したときに止血する機能がきちんと働くかを調べる検査です。止血に働く物質は肝臓で作られるため、間接的に肝臓の能力を見る事ができます。また血液をサラサラにする薬を服用している方は薬の効果を知ることができます。
病理検査	細胞や組織を顕微鏡で検査し、癌の早期発見や治療に役立ちます。そのための標本作成や人体解剖の介助も検査技師が行います。